

編 集 後 記

本誌の編集委員を拝命して、もう長い期間携わらせて頂いています。気づけば、編集委員会の中で最古参の一人になってしまっています。本誌は会員各位のご理解の基、電子ジャーナルとなり、順調に投稿数を維持しています。従って、編集委員は、毎日多忙な日常診療の中で査読に迫られる日々でもあります。本誌の掲載内容は日本の臨床神経学の診療レベルを反映している雑誌であると考えています。実際、海外からのアクセス数も多くなっています。一方、本誌は、筆頭著者が若い会員である症例報告が多いことが特徴の一つですが、投稿規定を遵守し、考察の論理的思考展開が理解しやすい論文が増えてきたとも感じ個人的には喜んでます。従って、今後も会員の皆様からの貴重な投稿をお待ち申し上げますので、よろしくご願ひ致します。

さて、最近の社会動向を踏まえた脳神経内科の診療現場の環境は、個人情報保護の厳守や COI 規定の強化、また診療面や教学面においても、厳しくなる病院監査や分野別認証評価等の医学部監査もあり、我々の取り巻く環境は年々厳しくなっていると痛感する今日この頃です。

編集委員会の業務も、良い意味でおおらかであった昔（こんなこと書くと年寄りだねと言われそうですが、まあ事実だからしょうがないです<(^_^)>）と比べれば、査読委員は単に論文の内容のみならず、「病歴」が法律で

「要配慮個人情報」として規定されたこともあり、「匿名化」にも十分に注意して投稿写真の細かい文字まで配慮して査読しますし、さらには COI の規定も考慮して査読をします。この社会動向の変化は、遵守するのが当然と言えば当然なのですが、査読する側からすれば、従来と異なった一層の配慮や気配りが必要となっています。正直、このまま掲載されたら、学会誌・学会自体の姿勢そのものが問われる事態にもなりかねないなと危機感を感じたことも、稀ではありますでしたがありました。確かに、文献検索や引用論文の読解がやや不十分である論文や論旨展開が明瞭でない論文は、少数ではありますが未だ存在し、その修正に時間を費やし苦慮しています（基本的にリジェクトするのではなく、大幅改変でも投稿への道を残すようにしていますので…<(^_^)>）。しかし、それよりも個人情報保護や COI の問題は、時には頭を抱えて悩んでしまいます。どうか、会員の皆様におかれましては、現在の社会動向にもご配慮頂き、個人情報保護法や COI 等にもご留意頂き、投稿規定に準拠した論文を十分に推敲なされてからご投稿されることを切にお願い申し上げます。

会員の皆様の更なるご発展をお祈りして、編集後記とさせていただきます。

（亀井 聡）

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員（幹事兼任） 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」	第58巻 第10号	平成30年10月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		戸 田 達 史
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>